

平成5年(1993年)5月12日(水曜日)

### 健康歳時記



厚生省の調査によるとお年寄りのボケは全国で百万人を突破、2010年には65歳以上の人のうち213万2千人が痴ボウ症になると予測されている。もし自分がボケになったら「...」という不安は、高齢者にとっては、いままはかりしれないものがある。

とくに心配されるのが、喫煙がボケに及ぼす影響だ。

70歳以上の人がボケる確率は、喫煙本数と比例しているともいわれている。

### タバコとボケ

タバコを毎日吸う人は、吸わない人に比べて、平均5年早く年をとるといっ。つまりタバコを吸う人は、タバコを吸わない5歳年上の人がボケになる危険率を、すでに先取りしている「わけだ」。

ボケは脳の血液循環の低下と、深いかわりがあるが、タバコは血管を収縮させる作用をもっている。

「禁煙してもすでに手遅れ」とあきらめてしまっている人がいるが、じつは、禁煙による効果は若い人よりも高齢者に早く現れる。

## 唾液腺にも「石」ができる

体のできる「石」としては胆石が有名だが、それ以外にもいろいろある。「石」がある。唾液腺(せき)もそのひとつだ。唾液中の無機質、とくにカルシウムが石のようにかたまったものだ。こんな石は舌(そ)でも「シス」はひとつもな

ん、舌下腺(せつかせ)の3種類の唾液腺がある。この唾液腺からは口腔内に伸びる細い導管が出てくる。

多くできるのは顎下腺。それらを石がたまり、まると具合が悪いのは「シカ」もよくある。まるとま



できるのは顎下腺だが、当然、原因となる唾石が、唾液の流れが悪くなり、細菌がたまってしまつて炎(えん)やリン酸カルシウムが析出(せき)を起したり、膿瘍(の)してできるものだ。大きき

うよつ)がきたりする。また、急にはれて激しい痛みに襲われる。この痛みを唾液腺痛(せきせんと)といったりするが

自然に排出される場合も

唾石が発見されたら、それを取り除くことが治療のすべてといつてもいいだろう。自然に排出される場合は別として、唾液腺の先端部分にある唾石なら、顎下腺あたりをマッサージして自然に出てくるのを促進させる方法もある。

しかし、多くの場合は手術をして取り出すことになる。細い導管にある石なら切つて除去できるが、腺内にあるときは腺体ごと取り出すことになる。

手術はそれほど心配する唾液腺炎になる前に手術で除去

## 治療はやはり手術で

### カルシウムが石のようにかたまり

口の中には耳下腺(じかせん)、顎下腺(がつかせ)

とてもないし、はれや痛みさらに唾液腺炎(せきせん)を考えれば放置してはおけません。